

東京丸の内ロータリークラブ

第46回 例会議事録

卓話: 赤十字国際委員会駐日事務所広報官
真壁 仁美 様

2020年2月19日(水)

会場 センチュリーコート丸の内
コンパートメント・ルーム

① プログラム

- ◆ 司会進行 古山真紀子 会長ノミニー
- ◆ 開会点鐘 尾崎由比子 会長
- ◆ 4つのテスト 玉木仁 専任副会長
- ◆ ゲスト・ビジター紹介 今井菜美子 副幹事
- ゲスト・卓話者
 - ・真壁 仁美様 赤十字国際委員会
駐日事務所 広報官
- ◆ ニコニコ報告 白杵紗季 会員
 - ・古山真紀子会長ノミニー
「真壁さん、きょうはよろしくお願ひします」

② 会長報告 尾崎会長

1 地区大会報告

先週は地区大会でした。まず、前日の2月11日

にロータリーデーが開催されました。国際通りの周り、県庁前広場においてブースや舞台が設けられ、朝からいろいろな催しが行われました。地元高校生による踊りや劇は、とても熱心に練習されたような内容でした。そのような機会を与えること自体とても大切なことと思ひました。ブースでは地元高校生のものほかに、那覇市や東京新都心 RC の奉仕活動の紹介などがありました。

地区大会初日 12 日には、クラブ奉仕委員会によるキャッチコピーの発表がありました。午後には会長・幹事会があり、その後平和記念フォーラムがありました。発展途上国で医療支援活動や貧困削減に取り組んでいる学友の大類様の講演やパネルディスカッションが行われました。その後、RI 会長代理の千玄室大宗匠をお招きしての晩餐会でした。その中で、那覇市長あてに首里城への義援金が贈呈されました。2580 地区およびその他の地区のロータリークラブからの義援金は総額 2,600 万円集まったそうです。その後ロータリー日本財団からも寄付金が贈呈されました。

13 日午前中には、新会員交流会があり、嘉納幹事、鷺澤会員とお嬢様、そして私が参加しました。午後は本会議で、いろいろな報告や表彰などがありました。その中でメインだったのが RI 会長代理の千玄室大宗匠による基調講演でした。現在 96 歳、裏千家前家元であり、元特攻隊の出身でいらっしやいます。ロータリーに対する熱い思いを語って下さいました。地区大会には国際大会と同様に、友愛の広場というものがあり、パネルなどを通じてロータリアンの発表の場となっています。東京福生ロータリークラブが奨学生の寄付に充てるための「希望の風ビール販売」を行っていたことが印象的でした。地区大会には大勢のロータリアンが集まっていました。ぜひとも次回は皆さんで参加したいと思います。初めて参加された鷺澤会員からも一言感想をお願いします。

・鷺澤充代会員 「沖縄に行くのも地区大会に参加するのも初めてでしたが、とても良い経験をさせ

て頂きました。新入会員の交流会では、テーブル8つに分かれて、なぜロータリー入会したのか、ロータリーに対してどういう思いを持っているか、今後自分がやりたいことは何か、などを自分の言葉で話し合うとても良い機会でした。娘も連れていきましたが、同じテーブルにお若い方もいらしたせいか、なごんだ表情で話していました。本会場の方では、クラブの紹介があり、立って「はい！」と返事をするのですが、皆さんとても大きな声で存在意義を発信していらっしゃいました。とても楽しかったです。ぜひ次回は皆さんと一緒にいきたいです」

2 名古屋丸の内ロータリークラブ25周年記念について

以前個人的にメイクアップで伺った名古屋丸の内 RC から会長幹事宛てに25周年の式典へのご招待がありました。とても光栄なこととっております。このようにどのロータリークラブの例会へも皆さん参加することが出来ます。お仕事のついででも、気になるクラブにはぜひとも積極的にご参加頂けたらと思います。

3 オーストラリア森林火災への支援について

・古山会長ノミニーより

オーストラリアへの支援ですが、無事に着金したというご連絡を頂き、ノースブリッジ RC 会長から御礼のメールも頂きました。原文および和訳をお配りしましたので、ご覧ください。そもそものつながりは、私の NHK の仕事の関係で知り合った豪セキリティィー会社の人（元陸軍特殊部隊の元兵士）から紹介してもらったのが、ノースブリッジ・ロータリークラブの方でした。皆さん、私達の申し出にすごく感謝して下さいました。こちらからも返信メールに後で撮影する写真を添えて送りたいと思います。

③ 幹事報告 嘉納幹事

1 地区クラブ奉仕委員長会議（2月4日）報告

私達の決めたスローガンを発表し、他クラブのスローガンも聞いて参りました。4月のガバナー月信に載ります。

2 ロータリー財団補助金プロジェクト「知的障害者サッカー教室」について

サッカーボールに東京丸の内ロータリークラブのロゴを印刷したものを、30名の方々に贈呈することになっています。当初はサッカーボール50個と車いす用スロープだったのですが、規模を縮小して実施することになりました。総予算111,000円、このうち8割が地区から出ます。

3 翹町 RC「ポリオ絶滅チャリティー公演」チケットについて

先般若林ガバナー補佐が例会にいらした時に託されたチケット5枚を古山会員と藪口会員が購入してくださることになりました。そのうち各人1枚ずつをクラブ負担としたいと思います。

④ 出席報告 鷲澤会員

会員数	8名	ゲスト	1名
出席数	7名	ビジター	0名
欠席数	1名	出席率	87.5%

⑤卓話 真壁 仁美 様

赤十字国際委員会 駐日事務所 広報官

《紛争地で働く赤十字「ICRC」とは？》

【古山会長ノミニーより卓話者紹介】

マスコミは危険地帯に取材に行く時に、セキュリティーの専門家を同行させるものです。ところが、赤十字国際委員会(ICRC)は、本当に危険な地域で人道支援をしているにもかかわらず、そのようなセキュリティーの専門家を連れては行きません。防弾チョッキも着用せず、装甲車でもないソフトシェルの車で行きます。もともとはNHKで真壁さんと知り合いましたが、2011年の東日本大震災をきっかけとしてICRCに移られたと伺いました。その後もご縁でお仕事を頂いております。ICRCの皆さんは熱い想いを持って人道支援にあたっていらっしゃることを知りました。本当に素晴らしいと思いますので、卓話をお願いいたしました。

ご紹介頂きましたICRC広報の真壁と申します。皆さん、赤十字といいますと日本赤十字社の医療、災害救援というイメージが強いと思います。ICRCは、紛争下に特化して人道支援を行っております。なので、医療だけではなく、避難民の支援とか、離れ離れになった家族の再会支援などを行います。あとは、独特の活動として捕虜の収容所を訪問して、拷問を受けていないか、人間として扱われているか、などを調査します。

私達のミッションステートメントは、「戦争や武力紛争の犠牲を強いられた人に対して人道的保護と支援を行う、公平にして中立かつ独立した組織」です。この公平・中立・独立というのが、ICRCの活動の幅をすごく広げています。先ほど古山さん

のお話にもありますように、セキュリティー担当者をつれていかなくても攻撃されないように、安全に活動することも可能となります。というのも、普通国際支援といえますと、戦時下にある国の政府を通して戦争犠牲者に支援を届けるということになります。そうしますと、反政府勢力の支配下にいる人達は支援を全く受けられません。それに対して、ICRCは中立・公平の名の下に、どのような出自・バックグラウンドかに関係なく公平に支援を届けることをしています。皆さんも最近シリア内戦のニュースをお聞きになっていると思います。シリアに60以上あると言われている反政府勢力にICRCはすべて窓口を持っていて、職員が狙われることなく、安全に彼らの支配する地域に支援を届けることができます。ICRCが支援活動するために、彼らも戦闘を一時停止してくれます。ただ、それも1日～3日しか続かず、また戦闘が再開されます。たった3日の間に何十万人に支援を届けるということは、物理的に不可能です。その時は国連にも声をかけて、赤十字の名の下に物資を届けるように車列を組んで赴きます。なので、この「独立・中立・公平」というのが戦時下のすべての犠牲者に支援を届けるのにとっても重要な理念となっています。

ICRCは2月17日に157年目を迎えます。赤十字機関の中でも最も古いです。日本赤十字社のような各国の赤十字は平時・災害時の支援を行うのに対し、ICRCは紛争地での支援を行います。本部はスイスで職員は1万8千人います。拠点は世界に100か所です。日本人の職員は30人です。日本赤十字社は一般の人々からの寄付で成り立っていますが、ICRCはジュネーブ条約(戦争のルールを定めた条約)に加入している政府から活動資金を頂いています。その4分の1がアメリカです。日本はアジアで唯一のトップドナーです。国民の税金から活動資金を出して頂いているということで、外務省を通じて日本政府とも多岐にわたり情報交換をしています。外務省からは日本人の職員

を増やして欲しいと言われますが、紛争地で活動するという性質上、なかなか難しいのが現状です。



赤十字というとボランティアが有名ですが、世界に約1,700万人のボランティアがいます。世界でも最も古い人道支援機関で、人道ネットワークは世界一です。このネットワークのおかげで、各国に散らばってしまった家族を、その国の赤十字を通じて再会させるということが出来るのです。

トヨタのランドクルーザーが私達のオフィシャルカーなのですが、防弾ガラスがありません。防弾チョッキも着ません。この赤十字のマークがあると、国際法上攻撃してはならないことになっています。万が一攻撃した場合は戦争犯罪になります。私達が武装をすることは、現地の人々との信頼関係を損なうことになるので、あえて丸腰でいます。ですから、私達の命を守るためにも赤十字のマークをよく見えるところに掲示します。

重点的に活動を行う先として、2017年からミャンマーのロヒンギャが加まりました。ロヒンギャはミャンマー国内で迫害を受け、大量の難民となって隣国バングラデシュに避難しました。日本のような平和な国で広報活動をするにあたっては、必ずその国の目線に立つようにしています。早稲田大学、日本記者クラブ、マニッシング、ヤフージャパン様などと一緒に「ヤングリポーターズ・コンペティション」を行っています。これはジャーナリストの卵に人道的な視点をもって報道してもらうコンペティションです。この中で、ICRC賞を受

賞した人は副賞としてICRCの活動地に取材に行ける、ということにしています。これにより、日本の女子大生が実際バングラデシュに行って、ロヒンギャ難民の子供たちを取材しました。この動画をご覧ください。(動画上映)

私達は支援先で特に子供たちの支援を重視していますが、それは避難している時に教育を受ける機会が失われると、悪い誘いに乗って過激な思想を植え付けられてしまい、憎しみを増幅されて将来のテロリストとなってしまうケースが多いからです。そのような将来の危機を未然に防ぐためにも、私達は子供たちの教育が大事な支援の一つと思っております。ちなみに、バングラデシュに行かれたのは第一回目の受賞者で、第二回受賞者はパキスタンに行ってきました。パキスタンのカシミール地方はインドとの紛争から地雷が多く、そのために障害者となった方がたくさんいます。今年はパラリンピックイヤーということもありますが、ICRCは障害者支援としてのソーシャルインクルージョン、すなわち兵器のために障がいを負った人たちが社会の中で人間としての尊厳をみとめられることを目指した活動もしています。

家族をつなぐという活動では、第二次世界大戦の時、シベリアなどの日本人捕虜が家族と連絡を取れるように、ジュネーブの本部に日本セクションが作られ、そこに送られた日本人捕虜からの手紙や小包を日本赤十字社に送り、仕訳をして日本の家族に届けるという活動をしていました。今はオンラインの時代なので、ウェブサイトを通じて連絡のやりとりができるようになりました。

人間の尊厳に寄り添う活動としては、義手・義足・車椅子の提供、医療やリハビリの施術のほかに、障害者の経済的自立を促すための職業訓練やビジネスを開業するための少額融資などを行っています。それから、スポーツなどを通じて障害者が人生を謳歌できるように、例えばアフガニスタンで車椅子のバスケットボールチームを応援したりしています。予選を通過しなかったので東京パラリンピ

ックには来られないのですが、せっかくなので、6月にアフガニスタン女子車椅子バスケットチームのキャプテンであるイロファと、そこで理学療法士として活動しているアルベルト・カイロ氏を日本に招聘して皆さんと交流する機会を設けたいと思っています。ちなみに、アルベルト・カイロ氏は2011年ノーベル平和賞候補にもなった人です。彼のTed Talk「人にくずなどいない」がとても好評ですので、ぜひご覧になってみてください。イロファについて言うと、アフガニスタンで女性であることはとても厳しいことで、このようにメディアの注目を浴びるのも社会からは良く思われないのです。女性のスポーツ、音楽などもタリバン政権では禁じられていました。ここにきてタリバン政権が再び台頭しつつあるので、「このままバスケットが出来るかどうかはわからない」と言っていました。日本では中村哲医師が命を落としたことが話題になりましたが、そのようなアフガニスタンの現在について彼らを通じて日本の皆さんにお伝えできればと思います。

もう一人、ニジェールのウサイン・ボルト、イブラヒムを紹介します。今、男子パラアスリート100m走で世界記録保持者です。恐らく3月の予選を通過して日本に来ると期待しています。

これ以上の犠牲を生まないために、不発弾や地雷に関して地域の方々や実際地雷を埋めた人たちとも連携しながら、撤去や啓蒙活動をしています。

紛争が長期化し国際社会が有効な解決策を見いだせない中、赤十字は世界最大の人道ネットワークを駆使して、自治体や当局、他の団体が出来ない中立・公平・独立の支援活動を、独自の調査を行って現場のニーズに応える形でしています。

私達人道支援機関にとって人道とは、「他人の幸福のために行動するように仕向けるもの。人間が互いにその運命を改善しあうことが礼儀であり、助け合うことは個人の負担となるのではなくて、より多くの満足の人々に与えるもの」である。実は人道の敵とは、実際に武器を持って戦っている人で

はなく、そのような状況に無関心であったり、想像力が欠如している人達なのです。なので、関心をあおること、私達が目を向けることによって、戦争当事者にいろいろなプレッシャーを与えることが出来るのです。

NHKの行った意識調査で、「日本が近い将来、戦争やテロに巻き込まれる恐れはあるか」との質問に、圧倒的多数の日本人がYesと答え、ジュネーブ本部を驚かせたほどです。ではそうなった場合どうするか、との質問には若い世代に「海外に逃げる」と答える人が圧倒的多数でした。ただ、「海外に逃げる」＝「自分は難民になる」と気づいているでしょうか。平和な中では、海外に行くのは旅行のようなものですが、戦争が始まったらまず空港が閉鎖されてしまいます。海外に逃げるとしたらボートで海を渡るしかありません。つまり、シリア難民がやったのと全く同じことです。実際たくさんの方がボートでヨーロッパを目指し、多くの方が命を落としました。

国際情勢に関しては日本人の関心は薄いですが、ところが、BBCの調査によりますと、日本は「ポジティブな影響を与える国」として世界で3番目に高評価です。世界に良い影響を与える国として、日本人がもっと関心を持って世界に手を差し伸べて欲しいと思います。ICRCは、エンターテインメントを通じて関心を持って頂こうと、今年6月にShorts Shortsというフィルムフェスティバルに参加しております。現地に漫画家を派遣して実情を訴える漫画も作成しております。また動画でもICRCの活動を知ることが出来ますので、ご覧になってみてください。今日はありがとうございました。

【質問】 ロヒンギャにスポークスパーソンがいないのは何故ですか（古山会員）

【答】 赤十字は公正・中立を旨としているので、そのスポークスパーソンの個人によって色がついてしまうのを避けるためです。また、赤十字は現地

に行って自分たちの見聞きしたことを外に出さないという原則があります。なぜなら、不都合なことが暴露されてしまうと、政府によって ICRC の入国を拒否されてしまうこともあるからです。

◆ 2月お誕生日
白杵紗季会員

◆ 事務局より連絡
今年6月のハワイ・ホノルル国際大会ツアーの申し込み資料が事務局にありますので、必要な方はお申し出ください。

◆ 閉会点鐘（尾崎会長）



今後の予定

3月4日 第47回 例会	卓話 神奈川県 政策研究担当局長 竹本治様
3月18日 第48回 例会	卓話 早稲田大学大学院 日本語教 育研究科 教授 小林ミナ様
4月8日 第49回 例会	地区公共イメージ向上委員会 委員長 中島弘人様 (東京ワセダ RC)
4月21日	地区研修協議会
4月22日 第50回 例会	Guest Welcome Day 卓話 (株)図書館流通センター 取締役 谷一文字様(小石川 RC)

以 上